

令和5年度地域活動サポートセンター活動実績報告

資料3

事業名	概要	活動報告	成果	課題	令和6年度の取組み
介護予防運動活動支援事業	市民に対し、介護予防のための運動活動を自主的に地域で行えるサポーターを養成し、地域にて実践することにより、高齢者の介護予防に繋げる	ボールンピック大会 ・予選会 96チーム、参加者666人 ・本大会 15チーム、参加者220人 延べ活動サポーター数 70人	予選会は各地域の公民館で行うということが浸透していることに加え、新しい地域からの参加もあり、予選会参加人数が増えた。	シニアクラブと連携して、参加地域を増やしてきたが、シニアクラブ連合会に属していない地域の参加がほとんどない。	予選会：令和6年9月17日（火）～令和6年10月25日（金） 決勝大会：令和6年11月7日（木） 上記の日程で各地域の公民館等での予選会、市民体育館での本選を実施。出場のない地域へは積極的に声掛けを行う。
		運動サポーター養成講座 令和5年6月終了 養成講座回数 3回 延参加者数 24人 ・フォローアップ研修 延べ参加人数 214人 ・地域でのフォローアップ研修 参加人数 181人 （内サポーター13人） 実施地域：久保区、青柳区、舞の里3区、中川区、舞の里1区、花見東1区、千鳥北区、庄南区	養成した内の1名はすでに地域活動に、3名の方は、ボールンピック大会の運営に積極的にかかわっていたが、サポーター活動に取り組んだ。地域でのフォローアップ研修もサポーターだけでなく、地域の参加者にも運動の楽しさ、大切さを再認識していただけたため、今後のサポーター活動の充実につなげた。	地域には様々な運動活動に取り組んでいる地域があるが、活動のサポートがゆいであるということを知らない地域もあるため、介護予防のための地域活動の充実のためにも、地域活動サポートセンターの体制を周知し、介護予防のための運動の推進に繋げていきたい。	・令和6年度 運動サポーター 55人 ・養成講座（10回） 9人申込 ・フォローアップ研修（10回） 地域でのフォローアップ研修では、各地域のニーズに合った講師を派遣し、地域活動の充実につなげていきたい。 ・地域でのフォローアップ研修（10回）
		地域で実施されている介護予防運動活動の支援 ・支援つどいの場 18カ所 ・延支援回数 490回 ・延活動参加人数 6713人 ・サポーター延べ支援数 1144人	感染症対策で活動を縮小する以前に比べたら、地域活動への参加者数は1000人ほど少ないが、活動回数やサポーター延べ支援数はコロナ禍以前と変わらないくらいまで地域の活動が行われるようになった。	サポーターからも活動の参加者が少なくなっているという声がかかる地域があるため、介護予防のための社会参加の重要性を周知し、地域での運動活動の充実につなげていきたい。	今年度後半に、希望のある地域にて、講師を派遣したフォローアップ研修などを行う。
		出前講座 及び 地域での体力測定会 ・まちづくり出前講座 回数 39回 延べサポーター活動人数 47人 延べ参加者数 626人 ・体力測定会 回数 42回 延べサポーター活動人数 134人 延べ参加者数 553人	シニアクラブからの依頼で体力測定を実施した地域が昨年度は14団体だったが、今年度は15団体と増えた。また、音楽活動を行っているつどいの場でも測定を行っているため、サポーターの活動の場が増えた。	家トレの推進に『運動やってみ隊』、体力測定を実施する『測ってみ隊』とそれぞれ活躍していただいているものの、少数で行っているため、新たな担い手を徐々に見つけていきたい。測定を行っているつどいの場へのフィードバック方法を検討する必要がある。	まちづくり出前講座及びシニアクラブ連合会、各地域のつどいの場での体力測定を実施。
運動習慣定着化事業	ケア・トランポリン健康運動教室を通し、運動習慣の定着化に繋げていく	ケア・トランポリン健康運動教室 花鶴丘1丁目区 20回 参加実人数 12人 庄北区 20回 参加実人数 24人	地域の公民館での開催に変更したことにより、参加者もより身近な場所で実施できたことに加え、地域活動の活性化に繋げることができた。	福岡県地域における運動習慣定着促進事業費補助金交付事業として実施していたが、県より事業の見直しの提案があり、本市の取り組みとの方向性に違いがある。	今年度から、ケア・トランポリン健康運動教室の実施は見送り、市の推進する『家トレ』などの側面から運動習慣の定着化を呼び掛ける。

令和5年度地域活動サポートセンター活動実績報告

資料3

事業名	概要	活動報告		成果	課題	令和6年度の取組み
介護予防音楽活動支援事業	地域で音楽を通じた介護予防活動を行う人材育成を行い、地域の公民館等で介護予防活動を実施し、高齢者の健康づくりや介護予防を推進する	音楽サポーター養成講座	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽サポーター 36人 ・養成講座回数 12回 延べ参加者数 86人 ・フォローアップ研修 12回 延べ参加者数 201人 	養成講座では8名が受講を修了。4名が新年度から地域での音楽活動の定期的な支援で、2名が音楽の出前講座の支援としてサポーター登録された。フォローアップ講座は音楽の活動の講座を6回、運動等の講座を6回行った。	地域住民の音楽サポーターによる介護予防音楽活動の開催をめざしているが、地域住民のサポーターがまだいない所もある(2箇所)。今後養成講座の受講生募集の時には心掛けて声かけしたい。	6年度は鍵盤ハーモニカだけでなく、歌唱や打楽器を用いた様々な音楽活動をワークショップの形式で行うことを目指している。
		地域で実施されている介護予防音楽活動の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・支援地域 19カ所 ・延べ支援回数 313回 ・延べ活動参加人数 2765人 ・サポーター延べ支援数 542人 	昨年度は12月から3月の期間で、福岡工業大学と測定サポーターの皆さんの協力を得て、活動する全ての地域で体力と口腔・肺機能の測定が行われた。今年度のフォローアップ講座にて測定の結果の分析結果の説明予定。	音楽活動サポーターとして活動が9年目を迎える方も多く、長年にわたるご支援を有難く思う。ただサポーターの方も次第に高齢化していくので、若い世代のサポーターを増やしていく必要があると考える。	鍵盤ハーモニカの教材として毎年発行している家トレブック(楽譜)の内容の見直し。現在無料で貸し出している鍵盤ハーモニカも不具合が生じてきているので、長く練習を続けている方には楽器の購入を検討してもらったり、楽器の貸出ルールの見直しを検討したい。
		活き生き音楽交流会	12月8日 リーバスプラザ大ホールにて <ul style="list-style-type: none"> ・参加人数 237人 ・参加団体 地域での音楽活動実施している19団体とゆいさばで活動する団体等(ギター、ウクレレ、ハーモニカ、詩吟、シャンテ、博多にわか、運動やってみたい) 	この数年コロナの感染予防対策の為に集って交流することができなかったが、今回は古賀市で介護予防に音楽を取り入れて12年(コロナ禍中に10年の節目)でもあり、大ホールでのコンサートを実施した。参加者からは、様々な楽器によるプログラムで楽しかった、鍵盤ハーモニカを約200名で一斉に演奏した「荒城の月」に感動したなどの感想が聞かれた。	コンサートが好評で、また集ってコンサートがしたいという希望が多く出たが、予算、感染症対策をふまえたうえで、継続的に発表、交流の場を設けるのが今後の課題だ。	例えば地域で活動する2団体の合同コンサートや出前講座を依頼しての交流会など、まずは身近なところから始める交流の場を設ける提案をしていきたい。
介護予防サポーター活動支援事業	高齢者の社会貢献を促すことで、生きがいづくりに寄与するとともに、地域や高齢者施設等の生活支援や介護予防も併せて進める	<ul style="list-style-type: none"> ・サポーター登録者数 232人 ・地域・施設等登録数 40カ所 ・延べ支援回数 1298回 ・サポーター延べ支援数 2995人 ・延べ参加者数 14941人 	令和4年度に比べ、サポーター登録者数が約1.2倍増加しており、介護予防サポーター活動に対する意欲を感じることができた。令和4年度はコロナの影響で受入れを希望する施設と介護予防サポーターのマッチングの場を設けることができなかったが、令和5年度は設けることができた。施設は希望するサポーター活動の内容を伝えることができ、サポーターは活動内容を紹介することができた。	コロナ禍で介護予防サポーターの受け入れを控える施設が多かったため、活動の場が限られていたが、徐々に受け入れ施設も増えてきている。今後も活動の場を増やしていくことが必要である。	令和6年度も地域交流カフェ(マッチングの場)を開催し、介護予防サポーターと地域・施設のマッチングを図り、より多くの介護予防サポーターの社会貢献や生きがいづくりの場を増やしていきたい。	
地域活動サポートセンター運営事業	地域のつどいの場や高齢者施設等で行われる健康づくり等の活動を支援するボランティアを養成し、高齢者等の健康の増進及び社会参加の促進を図る	ゆいさば教室養成講座	<ul style="list-style-type: none"> ・14教室 利用者数 1636人 (ゆいさばサポーター活動回数 延べ251回) 	ゆいさばビギナー教室の受講がきっかけとなり、介護予防サポーター登録をするという流れが定着してきている。	ゆいさば教室の位置づけをよく理解し活動している受講者はいるものの、一部理解できていない受講者もいるため、啓発方法に工夫が必要である。	ゆいさばビギナーオリエンテーションを通して、ゆいさば教室の位置づけを説明し、介護予防サポーター登録への認識を深める場を設けている。さらに、ゆいさば教室同士の交流を図り、介護予防サポーター活動への意欲を引き出したい。
		ゆい出前講座	<ul style="list-style-type: none"> ・回数 31回 延べ参加者数 650人 	令和4年度に比べ、出前回数が1.3倍に増加した。サポーターの介護予防への意欲向上にもつながっている。	講座により出前講座依頼数に偏りがある。より多くの利用者の社会参加への意欲を維持するためには、活動の場が必要であることから、地域や施設にゆい出前講座の内容を周知する機会をつくりたい。	令和6年度は15講座を準備。ゆいさば教室同士の交流や地域交流カフェなどを活用し、地域・施設に講座内容を周知し、出前講座につなげていきたい。
外出促進事業	高齢者の社会参加を促し、閉じこもりの予防と健康づくりを推進する	高齢者外出促進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・期間 令和5年7月～令和6年2月9日 ・シール配布対象イベント数 地域：228、行政：40 ・応募枚数 4278枚 ・当選人数 150人 	令和4年度に比べ、応募枚数が約1000枚以上増えており、高齢者の外出促進事業への定着がみられる。	イベント登録をする団体が多い地域と少ない地域があり、地域間でシールをもらえるイベント数に差がある。より多くの地域の高齢者の外出促進につなげるためにも様々な方法で事業の周知を図りたい。	令和6年度高齢者外出促進事業が4月にスタートし、7月から応募が開始した。行政区長、福祉会、シニアクラブ、市ホームページ、市のLINE等で事業への参加を呼びかけ、広く周知している。
		こがんよか健康ポイントキャンペーン	<ul style="list-style-type: none"> ・期間：令和5年10月1日～10月31日 ・応募人数 94人(当選人数20人) 	キャンペーンを通してふくおか健康ポイントアプリを知ってもらい、健康づくりのきっかけとなった。	キャンペーン3年目で昨年よりも応募人数は増えたが、より多くの高齢者の健康づくりを推進するためにもさらに認知度を高める工夫が必要である。	令和6年度も令和5年度同様に実施予定。7月の段階で、行政区長、福祉会、シニアクラブ、市ホームページ、市のLINE、ふくおか健康ポイントアプリで参加を呼びかけ、周知する。

事業名	概要	活動報告		成果	課題	令和6年度の取組み
生活支援体制整備事業	地域の支え合いネットワークの構築を行い、住み慣れた地域で高齢者が安心して暮らせる体制を整備する	地域支え合いネットワーク全体会	2層（小学校区） ・令和4年度生活圏域ニーズ調査から見えてきた高齢者状況報告・グループワーク実施：テーマ/集いの場までの移動手段を考える。 1層（市全体） ・令和5年度の体制整備活動の報告 ・地域活動支援に係る情報の一元化について課題会議を行う。	2層生活支援コーディネーター 8小学校区で地域支え合いネットワーク全体会を開催（総数176人） 10/29舞の里（24人）11/22古賀西（26人）11/27花鶴（15人）11/29小野（18人）11/30花見（20人）12/2青柳（17人）12/11古賀東（22人）12/16千鳥（34人） 各行政区の高齢者に関わる各リーダーに集まっていたが、生活支援コーディネーターと地域包括支援センター・専門職等が中心となり、地域課題体制整備に関わる関係機関が参加。 ・1層地域支え合いネットワーク全体会を開催3/25（24人） 市役所関連課、及び、関係機関より本年度の課題報告を行い情報共有を行った（24人）	・校区別の地域支え合いネットワーク全体会で作ったネットワークを生かし、各校区課題解決のため住民と共に話し合っていく課題別会議の開催が求められている。 ・1層全体会議において、体制整備の取組を2層生活支援コーディネーター・地域包括支援センターが夫々報告し、それを1層がまとめていく連携が日々の業務に活かされるためにも、情報の共有化が重要に思う。	・小学校区別実施の「地域ネットワーク全体会」課題解決に向け、課題別会議を3中学校区別に各1回の開催を目指します。 ・1層全大会において2層の課題解決にむけ協議体（NPO、企業、ボランティア等）が参加し、地域包括ケアシステムの効果的機能の活性化に向けたネットワークづくりを推進する。
		ネットワーク通信	・通信16号 「令和4年度に実施した生活圏域ニーズ調査から見えてきた古賀市の高齢者の現状」 ・通信17号 「古賀市介護予防事業の推進方法まとめ」	令和4年度発行の15号及び16号配布及び活用 14号の介護予防サポーターなどを含み地域活動の支援に関する情報と15号の地域のつどいのアンケート（日常生活・現在の健康状態・居住地域・交流活動の振り返り）結果を掲載し、出前講座やサポーター養成講座（ビギナー教室含む）などで活用し活動啓発を行う。	地域支え合いネットワーク通信は、体制整備事業の啓発や地域課題解決のための情報の見える化を目的に発行している。目的を達成するには、古賀市の高齢者課題を分析し、解決につながる情報の継続と共に包括ケアシステムの構築の深化・推進を図る有意義な情報誌にする。	・通信16号（R5年11月発行）の本市の高齢者データ活用と通信17号（R6年4月発行）の自助・互助図を活用し地域リーダーの集いやNPOなどで啓発し介護予防のに係る社会（地域）参画者（団体）との情報級を図る。 ・通信18号・19号ではR5年度に見えてきた課題をふまえ、内容を検討し発行する。
		介護予防・生活支援課題別会議	・課題別会議（買い物支援・人材育成） ・社会資源の開発 ・社会資源の見える化	買い物支援 古賀市の買い物支援に関する現状が明確になってきた。 人材育成 関係機関との連携が取れ始める。情報の共有を行うことになった。	地域支え合いネットワーク全体会において、移動支援課題が地域課題となっているところが多い。今後、団塊世代の後期高齢者に伴う免許返納が増えることを予測し移動支援者は継続して課題別会議を開催する必要がある。	・買い物支援に通じる「スマートアグリ事業（農林振興課）」と連携し支援の現状から課題を見出す実証実験を継続する。 ・高齢者の健康づくりと介護予防の一体化を地域展開できる関係者協議を図る。
		SC/CSW連携タイム	・年間30回（R5年1月末） SC/CSW学習、情報共有・事業の構築 ・地域交流カフェ（5回）	2層生活支援コーディネーター3名配置し地域担当を決め、活動が始まる。本年度は、2年目に入り協議内容が充実してきた。 地域交流カフェでは、介護予防サポーターと地域とのマッチングが推進できた。	地域課題が明確になってくると、1層・2層の生活支援コーディネーターの連携は重要となる。 生活支援コーディネーターの位置づけや業務を、9期介護保険計画に合わせ明瞭にした取り組み内容が課題である。	・生活支援コーディネーター業務を第9期介護保険計画に準じて推進するため、定期会議を設け情報共有及び意見交換を行います。 ・地域主体の「つどいの場」づくりや地域活動支援・介護施設などにつながる介護予防サポーターマッチングの「地域交流カフェ」の活性化を図る。